

2014年11月28日 礼拝メッセージ

聖書：ヨナ書 1章1～6節

説教：ヨナのしるし

1 ヨナのしるしのほかは

今日から主の御降誕を待ち望む待降節、アドベンドが始まるのに合わせ、これから三回に分けてヨナ書を開いていきます。

クリスマスの季節に、どうしてヨナ書なのかと疑問に思う方もおられるでしょう。救い主がやがて来てくださることは、旧約の時代から預言者を通して何度も語られていました。今開いているヨナもそんな預言者のひとりです。そのヨナについて、イエスはルカの福音書 11章 29, 30節で次のように語っておられます。「この時代は悪い時代です。しるしを求めているが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。というのは、ヨナがニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。」

「ヨナのしるしのほかは」と言って、ヨナの身に起きたことが、あたかも主ご自身とつながっているような言い方をされています。このクリスマスの季節、ヨナ書を開きながら、主が私たちの所に来られたことの意味をもう一度味わっていきたくて願っております。

2 ヨナ

1) 逃げる理由

ヨナが活躍した時代は紀元前七百年頃とされています。そのヨナへあるとき主が語りました。2節。「立って、あの大きな町ニネベへ行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」

ニネベは、現在のイラクの北側にあり、か

なり大きな町であったようです。ヨナはどうしたか。ニネベには向かいません。タルシシュを目指します。タルシシュは今のスペインにあった町であろうと言われます。ニネベとタルシシュはまったく正反対の方向です。預言者であったヨナは、主のみことばに逆らって逃げようとしたのです。

預言者と言えば、みな主の御声に忠実に従った人たちとと思っていますから、これは驚きです。どうしてヨナは逃げようしたのでしょうか。ここには説明がありません。このことはヨナ書の後のほうで種明かしされます。結論を先に言います。ヨナは結局ニネベに向かい、ニネベの人たちは悔い改めて救われます。でもヨナは思っていました。あんな悪いことをしている奴らは滅ぼされるべきである。なぜ自分があの町へ行って、あの人たちを救わなければならないのか。無性に腹が立ってきた。それで彼は、逃げ出したのでした。

皆さんはヨナのことをどう思いますか。もっとまじめな預言者が好きという方もいらっしゃるでしょう。あるいは、こんなへそ曲がりのヨナが大好きという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

2) 船底でぐっすり寝込む

ヨナはタルシシュ行きの船に乗り込みました。ところがその船が大嵐に遭ってしまいます。神が大嵐を海に吹き付けられたからでした。船の乗組員は積み荷を海に投げ出します。船をできるだけ軽くしておけば助かる確

率が高くなるからです。しかし、風はますます強くなり、波は容赦なく船を襲い、もうだめかもしれないと言う所まで追いつめられます。そんなとき、なぜかヨナだけは船底に降り、そこでぐっすりと寝込んでしまいます。

この場面を読んで、聖書のある箇所を思い出した方もいるでしょう。弟子たちが船に乗り、湖をわたっていたときに大嵐になった場面が福音書の中にあります。やはりあの箇所でも、船は沈みかけているというのに、なぜかイエスはぐっすりと寝込んでいました。

私の経験ですが、大時化のときに新潟から小樽に向かうフェリーに乗った時のことを思い出します。船が上下左右に大きく揺れ、波が船底を打ち付けるたびにドーンと大きな音が響いてきました。船酔いには自信があったのですが、気持ちが悪くてベッドに横になったまま頭を上げられない状態でした。もしかして沈むのだろうかと不安がよぎりました。

3) 「起きてあなたの神にお願いしなさい」

大型の船に乗ってできさそうなのですから、ましてヨナが乗っていた船はどうでしょう。右に左に大揺れに揺れ、生きるか死ぬかの瀬戸際です。船底で寝込んでいるヨナを見つけた船長はあきれてこう言います。6 節。「いったいどうしたことか。寝込んだりして。起きて、あなたの神にお願いしなさい。あるいは、神が私たちに心を留めてくださって、私たちは滅びないですむかもしれない。」

この船長が「起きて、あなたの神にお願いしなさい」と言っています。どんな神でもよい。できるだけたくさんのお祈りに祈ったら、もしかしてそのうちの一つの神に祈りが聞かれるかもしれない。日本語に「下手な鉄砲

も数打ちや当たる」ということわざがありますが、そのままです。

ヨナは船長のことをどのように聞いたのでしょうか。この後の 10 節で出てきますが、ヨナは船に乗るとき船員たちに、自分が主の御顔を避け、主のところから逃げているというのだという事情をあらかじめ話していました。神から逃げている者に向かって、外国人の船長から、あなたの信じている神にお願いしなさいと言われたのです。どんな顔をしてお願いできるのでしょうか。なんと肉な話です。

3 イエス

1) 不信仰なヨナ？

このあとのことはまた次回に見ることにします。今日の箇所から何が見えてくるでしょう。ヨナは主の御顔を避けて、行けと言われた方向とはまったく正反対の方に逃げていくのですから、とんでもない預言者です。信仰深かったとか、忠実であったとはどう考えても言えないように思います。けれどもイエスは、そんなヨナを取り上げ、「この時代、ヨナのしるしのほかは与えられない」と言われました。どうしてなのでしょう。

スタート地点に戻って考えてみましょう。最初に神がヨナに向かって、「立って、ニネベに行きなさい」と語りかけたとき、神はヨナが逃げ出すことを予想できなかったのでしょうか。全能の神ですから、すべて知っておられたはずですが、知っていながら「行きなさい」と言いました。

ということは、どういうことになりますか。私たちは、ヨナのしていることを見て、マイナスの評価をしがちです。少なくともプラスの評価をする人はいないでしょう。ところが、

神はどのような方ですか。神に向かって、「行きたくない」とか「いやです」と反抗するようなことを言ったとしても、まったく問題がない。そういうことを教えています。いや「問題ない」というようなレベルではありません。「行きたくないです」とか、「いやです」という私たちの正直な思いをそのまま受けとめます。受けとめて、それをすばらしいものに用いようとしていきます。

こんなことを言うと、顔をしかめる方もいるかもしれません。「私たちは神に忠実に従うべきである。神を悲しませるようなことをしてはいけない。わがままなんて言うべきではない。」

でも、どうですか。神にいつも従えますか。できない場合もあるのではないですか。頭ではもちろんわかっています。でも心が追いつかない。からだか追いつかない。いろいろな事情があつて、できないときがあります。ヨナのように「いやです」と言いたいときもあります。けれども、まじめな方は、「いやです」なんて思つてはいけない、まして「いやです」と言うのは不信仰な事だと、自分を責めてしまうことがあります。

神はどんな方ですか。ヨナは不信仰だと思つていたけれど、見方を変えれば、実に正直な人と言うことができるのではないですか。「いやなものはいや」はつきりと態度で示しています。

神はどんな人を用いますか。神は忠実な人を用います。「忠実な」というところを勘違いしてはいけません。自分の本当の思いを殺して、神にいつも「はい」とだけ答える人が忠実なのですか。いいえ。それは嘘をついているのと同じ、不正直と言うことではないですか。それに対してヨナはどうでしたか。自

分の思いに正直でした。「いやなものはいやだ。」そう言つて逃げた。実は、それが神にとっては忠実だったのです。

ヨナが逆らつたなら神のみこころは実現できないのですか。いいえ。逆らうヨナを通して、神はご自分のみこころを実現していきます。ヨナが逆らえば逆らうほど、神の恵みが鮮やかに浮かび上がっていきます。それが神のなさるわざです。

2) 下へ降りて行くヨナ

どのようにし神のみわざは実現していくのでしょうか。ヨナがどこに向つたのかに注目します。最初に、彼はヨッパという町に向かいました。そこで船に乗ります。そして、船底に降りて行きました。これらの「向かう」、「乗る」、「降りて行く」、この三つのことばは、すべて「下へ降りて行く」という意味の同じことばが使われています。主の御顔を避けるために、ヨナは下へ下へと降りて行きました。実はそのことが主イエスのお姿を示しています。

主がどこへ向かわれたのかを思い出しましょう。この方は、父なる神のところから私たちの所へ降りて来られました。十字架という、この世で最も忌まわしい刑罰を受けられ、人々に捨てられ、私たちのうちで最も低い者となられました。十字架で死なれ、よみにまで下つて行かれます。こうしてみると、主はいつも下へ下へと向かつていったことがわかります。

私たちはどこを目指して歩んでいますか。下を目指す人はいません。上を目指します。今よりもっと良い生活。今よりもっとすばらしい信仰者。今よりもっと神に愛される人。もし、それができないとわかつたとき、

非常に悲しみます。自分が悪い、努力が足りない自分を責めます。

でも、神はどこを見ていましたか。いつも下です。下を見ているから、私たちの所に人となって来られたのではないですか。人を救ったけれどご自分を救えない。人よみがえらせたけれど、ご自分は死んでいく。できる神ではなく、できない神となって下に向かわれました。

だれでも良い信仰者になりたいと願うでしょう。どうしたらなれるでしょう。上を見ようとしています。でも主は下を見たのです。そこにはこんな私たちの叫びと祈りがあります。「神さま。あなたに従いたくありません。私は神に逆らおうとするひどい人間です。」その心にあるものを正直に告白するとき、あなたは忠実な者であると主は言ってください。そして、喜んで迎えるために私たちのところに降りて来てくださいました。クリスマスの意味を改めて味わいたいと思います。